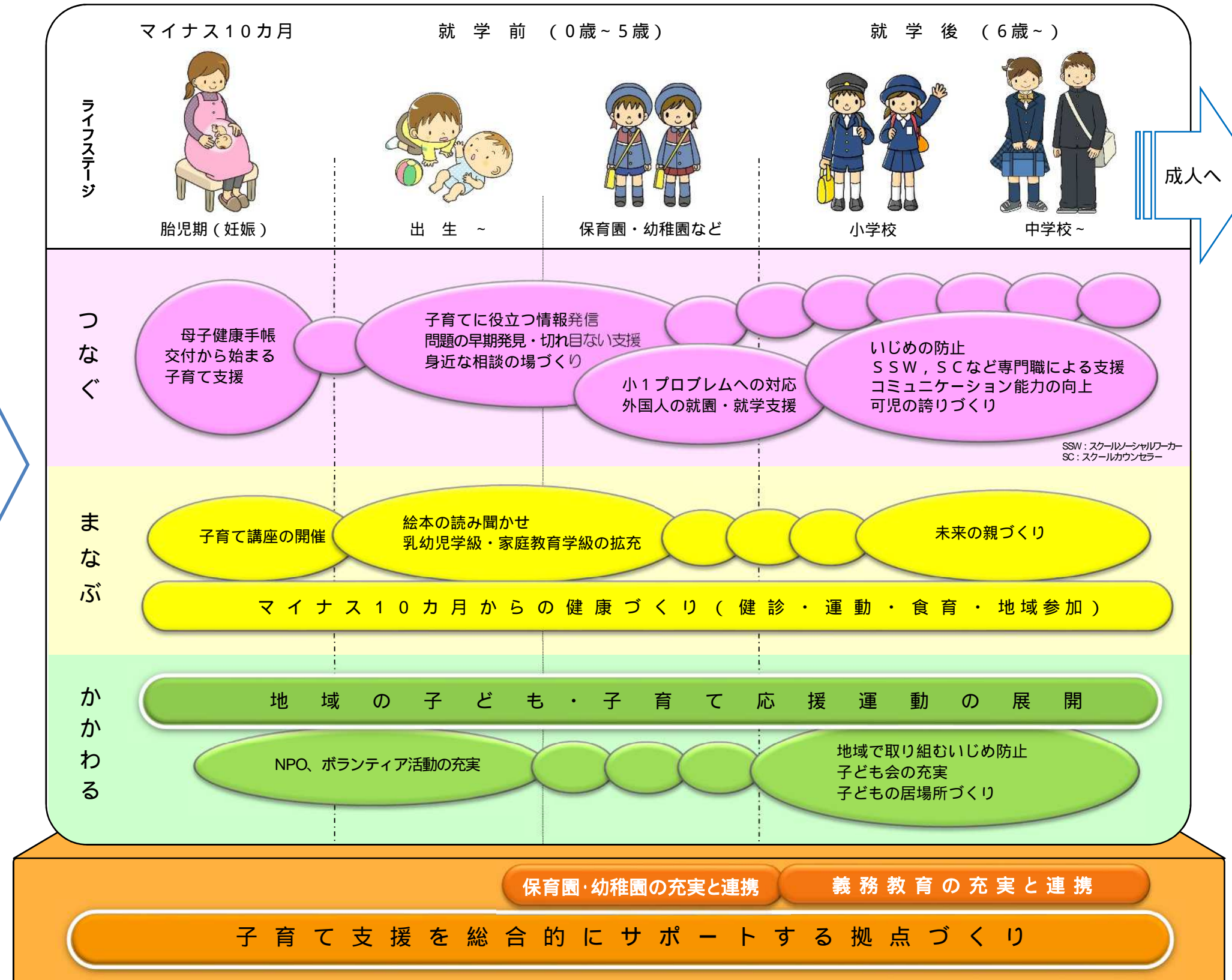


～ マイナス10カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て ～

少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化などの影響により、子育て家庭が孤立し、子育てに悩む・疲れる親が増えていることが全国的な問題となっており、地域・社会のみなんで子育て家庭を応援し、支えていくことが求められています。

そこで、本市では、子育ては子どもが生まれてから始まるのではなく、お腹の中に宿ったとき（マイナス10カ月）からすでに始まっていることに重点を置き、そのときから子どもと子育て家庭が地域・社会とつながり、子育ての大切さを学び、みんなで子育てに関わっていく取り組みを推進していきます。

こうした子育てを通して、“自分自身を認めてあげること 相手の気持ちを思いやること 地域で支え合うこと”の3つを大切にでき、いつまでも健康でいられる成人に育てていきます。



地域・社会

つなぐ (公助)

- ★ 子育て家庭と子育て支援サービスをつなぐ
- ★ 子どもの育ちと学びの流れをつなぐ

マイナス10カ月~
子ども・子育て家庭

まなぶ (自助)

- ★ 子育ての大切さやノウハウを学ぶ

かかわる (共助)

- ★ 地域のみみなで子ども・子育てに関わる

成人へ

SSW: スクールソーシャルワーカー
SC: スクールカウンセラー

重点的に取り組む主な事業

子育て家庭と子育て支援サービスをつなぐ	
母子健康手帳交付から始まる子育て支援	“ マイナス10カ月からの子育て ” の大切さを啓発するためのパンフレットを新たに作成し、子育て支援のスタートとなる母子健康手帳交付のときに配布します。健康診査や子どもの発育相談などの母子保健事業を通して、子育て家庭とのつながりを築き、母親の孤立防止や子育てについての不安の軽減を図ります。
子育てに役立つ情報発信	情報発信のノウハウを持つ民間事業者と協働して、子育て支援ウェブサイトや子育て支援情報誌をリニューアルし、見やすく分かりやすい情報提供を行います。子育て世代に普及しているスマートフォンやソーシャルメディアを活用した効果的な情報提供を行います。
問題の早期発見・切れ目ない支援	特別な支援が必要な子どもや家庭を、健康診査、乳児家庭訪問、市役所担当窓口、保育園、幼稚園、学校、地域の子育て支援施設などにおけるさまざまな機会を通して早期に発見し、関係機関が連携しながら適切な支援につないでいきます。発達に心配のある子どもの支援を充実させるため、相談やサービスの利用計画づくり、訪問調査などを行う相談支援事業所を新たに開設します。子どもの育ちや家庭の状況に合わせた切れ目ない支援を行うために、適切な支援をコーディネートしていく仕組みづくりを進めるとともに、子育てに関する総合相談窓口の開設を検討します。
身近な相談の場づくり	地域の子育て支援施設（児童センター、子育てサロン、地域子育て支援センターなど）において、親子で気軽に参加できる活動などを企画するとともに、相談員や地域とのつながりづくりを進めます。保育の専門性を活かして支援する「マイ保育園・幼稚園」の実施を検討します。
子どもの育ちと学びの流れをつなぐ	
小1プロブレムへの対応	子どもの育ちと学びの流れをスムーズにつなぐためのカリキュラムをつくり、保育・教育現場で実践していきます。
外国人の就園・就学支援	日本の文化や習慣、言葉、集団生活に慣れていない外国人の子どもをスムーズに就学につなぐためのプレスクールのあり方を検討します。
いじめの防止	関係機関との連携を更に強化するとともに、「いじめ防止専門委員会」による相談や支援を行い、子どものいじめの防止・解決に取り組めます。いじめを防止するための教育プログラムを大学と協働で開発し、道徳の授業や特別活動などに取り入れます。
SSW、SCなど専門職による支援	複雑で多様な家庭問題などを抱えた子どもが増えるなか、関係機関が連携して支援を行うため、スクールソーシャルワーカー（SSW） ¹ を配置します。併せて、スクールカウンセラー（SC） ² などを配置し、一人ひとりの困り感を解消していきます。
コミュニケーション能力の向上	小学校で英語コミュニケーション教育の研究校を増やし、教材の開発を進めます。また、演劇・ダンスなどの表現手法を用いたコミュニケーションワークショップを実施し、子どものコミュニケーション能力を高めていきます。
可児の誇りづくり	可児の良さを知り、誇りを持てるように郷土の歴史や文化を学ぶ教材を作り、授業などで活用するとともに、体験学習の機会を増やしていきます。

つなぐ（公助）

スクールソーシャルワーカー¹・・・子ども本人と向き合うだけでなく、家庭や行政、福祉関係施設など外部機関と連携しながら、子どもを取り巻く環境を調整する。社会福祉士など福祉のプロが担う。
 スクールカウンセラー²・・・子どものさまざまな悩みの相談に応じ、助言をするなど心のケアを行う。心理学の専門知識をもった臨床心理士などが担う。

子育ての大切さやノウハウを学ぶ	
子育て講座の開催	マタニティ教室やプレパパ・ママ教室、食育に関する教室、NPプログラム ³ などを開催し、親となる心構えや子育ての大切さなどを学ぶための機会を提供します。
絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせや本の団体貸出しを推奨し、子育て中の親が、親子の絆づくり、子どもの情緒豊かな心やコミュニケーション力を育むための機会をつくります。
乳幼児学級・家庭教育学級の拡充	通年の乳幼児学級・家庭教育学級と併せて、すべての親を対象に子育ての正しい知識などを学ぶことができる講演会や講座を開催します。PTA活動と連携を図りながら、学級に参加しやすい環境づくりを進めます。
未来の親づくり	小中学校において、命の大切さ、若年出産に係るリスク、家庭と子どもの関わりなどを学ぶための授業や体験活動を行います。中高校生を対象に、赤ちゃんに触れ合う講座や子育てサポーターの体験活動を行い、将来の親となる子どもに家庭や子育てについて考える機会をつくります。
マイナス10カ月からの健康づくり	子どもの健やかな成長のために、さらには生涯にわたり健康を目指す“1・2・3・4で健康づくり” ⁴ につなげていくため、マイナス10カ月から健診や食育、運動、地域参加への意識を高め、親子でライフステージに合った望ましい生活習慣を学び、身に付ける取り組みを進めます。可児市の自然や歴史・文化などとふれあいができるウオーキングルート“Kルート”を活用し、親子や地域との交流、健康維持、体力向上に役立てます。
地域のみんで子ども・子育てに関わる	
地域の子ども・子育て応援運動の展開	市民運動として展開してきたEduce9をもとに、マイナス10カ月からの子育ての大切さを広め、さらに地域・社会全体が子どもと子育てに関わっていくための機運を高めていきます。
NPO、ボランティア活動の充実	地域の子育てサポーターを養成する講座を開催するとともに、ファミリーサポート事業への参加を促していきます。児童センターやキッズクラブなどを利用する子どものボランティアに対する意識を高め、施設や地域で自発的に活動できるように支援します。キッズクラブを、地域のボランティアと子どもの交流の場となるようにし、地域全体で子どもを見守る環境をつくっていきます。また、大人のボランティアだけではなく、大学生や高校生、中学生の参加を促していきます。“Kマネー事業（支え愛地域づくり事業）”により市民のボランティア活動を活発化させるとともに、市内の子育て支援団体やNPOなどと行政が連携し、子育て支援のためのさまざまな活動を促進します。
地域で取り組むいじめ防止	いじめ防止協力事業所・団体の認定、特別顧問による学校訪問や講演会の開催、家庭で担う役割を考える啓発パンフレットの配布などを行い、地域ぐるみでいじめを防止するための啓発活動を実施します。
子ども会の充実	親子で参加しやすく、地域とのつながりを意識した活動を増やしていくために、参考となる取り組みをホームページなどで紹介していきます。また、地域の子ども会活動が充実するための方策を検討します。
子どもの居場所づくり	UNICのスポーツ講座や公民館の文化講座において、地域住民が指導者などとして関わり、子どもがスポーツや文化活動を楽しむことができる場を提供していきます。
子育て支援を総合的にサポートする拠点づくり	可児駅前の公共用地に、“子育て・健康・賑わい”をテーマに、市の子育て支援を総合的に推進する機能を中核として、大人の健康づくりや市民が交流できる機能を兼ね備えた、市の玄関に相応しいシンボリックな空間を創出するため、市民の意見を聞きながら、施設の基本設計などを行います。

まなぶ（自助）

かかわる（共助）

NPプログラム³・・・ノーバディズ・パーフェクト・プログラム。乳幼児を育てる親が互いの体験や不安を話し交流し合う中で、子育ての基礎的な知識を学び、親としての自立を促す親支援プログラム。
 1・2・3・4で健康づくり⁴・・・市民一人ひとりが意識的に健康づくりを実践するための合言葉。4つの取り組み「年に1回の健康診断、週2回のウオーキング、日3回のバランスのよい食事、4やかい（社会）活動への参加」を無理なく生活の中に取り込み、自分にあった健康づくりを実践することで、効果的に生活習慣を改善し、疾病の予防につなげていく。